

会 議 録

会議の名称	平成28年度 第5回日向市子どもの未来応援会議
開催日時	平成29年 1月16日（月） 13時30分から16時30分まで
開催場所	日向市健康管理センター2F会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>北九州市立大学 坂本 毅啓 委員 九州保健福祉大学 日田 剛 委員 延岡児童相談所 大藤 精一郎 委員 日向公共職業安定所 藤本 奈美 委員 日向市生活相談・支援センター 松永 茂晃 委員 日向市保育協議会 椎屋 浩昭 委員 日向市民生委員児童委員協議会 岩木 恵子 委員 社会福祉法人浩和会白浜学園 久光 博之 委員 日向市PTA協議会 椎葉 哲男 委員 のびのびフリースペース 喜多 裕二 委員 排除しないまちづくり「結い」 片田 正人 委員 日向子ども研究所「絆」 三輪 邦彦 委員 日向市役所こども課 栗田 義隆 委員 日向市役所学校教育課 鈴木 重仁 委員</p> <p>【事務局】</p> <p>日向市役所健康福祉部部長 三輪 勝広 日向市役所健康福祉部福祉課課長 水野 重信 日向市役所健康福祉部福祉課 黒木 宗隆 日向市役所健康福祉部福祉課 伊達 忠亮</p>
議題	<p>1) 「子どもの未来応援推進計画」案のイメージについて</p> <p>2) 計画案策定に向けた次回以降の協議の進め方について</p>
会議資料の名称 及び内容	<p>1. 日向市「子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査」及び「子どもの 貧困対策に関する教職員アンケート」集計票（暫定版）</p> <p>2. 保護者と子どもの個別インタビュー調査集約（中間結果）</p> <p>3. 「日向市子どもの未来応援推進計画」案</p> <p>4. 計画案策定に向けたスケジュールについて</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

1 開会

事務局：開会のあいさつ。欠席4名（橋本会長、志賀副会長、足立委員、葛和委員）、三輪事務局長は途中参加。委員の過半数の出席により会議は成立。会長、副会長が体調不良、業務の都合で欠席のため、議事進行は事務局が行う。本日の会議日程を説明、13時30分から14時50分まで報告、10分間休憩の後、15時から議事に入り、会議終了は16時予定。

2 報告

- 1) 「子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査」及び「子どもの貧困対策に関する教職員アンケート」の実施結果（単純集計）について
- 2) 保護者と子どもの個別インタビュー調査の中間結果について

【事務局より報告】

以下のとおり「子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査」及び「子どもの貧困対策に関する教職員アンケート」の実施結果（単純集計）に関して報告。

調査期間 平成28年11月14日（月）から12月2日（金）

調査方法 保育所（園）、小・中学校に、調査票の配布、回答票の回収の協力

○「日向市子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査」

調査対象 日向市内の保育所（園）（4園）の年長組の保護者

日向市立小学校（13校）3年生の保護者

日向市立中学校（7校）3年生の保護者

※きょうだいで調査対象家庭が重なった場合には、長子が在学期間に回答票を提出

※ご協力いただいた保育所（園）・・・上町保育所、細島保育所、富高保育園、
往還保育園

回収目標 70%

回収率結果 88.2%（配布数1,223部 回収数1,079部）

○「子供の貧困対策に関する教職員アンケート」

調査対象 日向市立小・中学校勤務の教職員

回収目標 90%

回収率結果 95.8%（配布数405部 回収数388部）

○保育所（園）、小・中学校に調査票の配布、回答票の回収をご協力いただいたことで、目標の回収率を達成できた。なかには、回収率100%の学校もあった。ご協力に感謝するとともに、貴重なアンケート結果が得られたと考えている。

○自由筆記は、すべての回答を記載。調査期間が十分でなかったためか、保護者向けアンケ

一トの間8「今後どのような取り組みを期待しますか」の自由筆記では、記入して頂けた保護者が少なく、残念な結果となった。工夫が必要であったと考えている。

○教職員向けアンケートでは、問10の「ご意見を聞かせてください」の自由筆記で、さまざまな意見が出された。計画策定に向けて、参考となる意見も含まれているのではないかと感じている。

○今回は単純集計の結果なので、今後、所得階層別のクロス集計などを行う中で、どういう傾向が出てくるかはわかりません。早急に取り組んでいきたい。

○保護者向けアンケートの間5で、子どもさんをたたくとか、なぐる、しかるとか、屋外に締め出すなどのいわゆる虐待と捉えられる行為に関する設問では、予想を超えて回答意見が多かった。

事務局：今日は単純集計のみになりますので、持ち帰ってご覧くださいしかないと思っています。また、すべての設問をグラフにできていませんので、全体的な傾向がなかなか捉えにくいだろうと思います。再三、申しあげているクロス集計で、一番関心があるのは、所得との関連性だと思います。資料（数字だけの表）の、後ろのページの下から3つ目の中に、「(4)お子さんと生計を共にしている方全員の収入を合わせた世帯の収入」の設問があり、50万円未満から1,000万円以上の方がいらっしゃいます。この区分ごとに子どもへの影響、健康状態にどのような傾向が出るのか、生活面でたたくとか、しかるとかの傾向を掴むためにはクロス集計をしなければ傾向は出てこないと思いますので、本日示したグラフだけを見ても、現状を的確に把握することは出来ない状況です。クロス集計に関しましては、今後、必要な設問から集計し、グラフ化して、次回の会議でお示ししたいと考えているところです。次回の会議がスムーズに進められるよう、その資料を会議の前に郵送したいと考えております。本日は概要ですけれども、ご質問等があれば順に出して頂きたいと思います。本日のご質問を参考にしながら、クロス集計の内容を検討して参りたいと思っております。ご質問、ご意見はありませんでしょうか？

【事務局から分析内容について説明】

推進計画案の資料15～18ページ、「子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査」及び「子どもの貧困対策に関する教職員アンケート」の結果分析について報告。

事務局：概要ということで、ご報告をしました。ご質問があれば自由に出して頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員：私の方から2点あります。1点目は、特徴的なところとか単純集計を報告して頂いたんですけれども、今後、クロス集計をする場合、それをこの文章（計画）の中に盛り込むつもりでクロス集計をしようとしているのか、それともそれはそれで置いておいて、支援策を考えるためにクロス集計とか、いわゆる相関関係とかを見ながら解析していこうとしているのかで、いつまでに仕上げないといけないかが決まってくるかと思われましたので、それがまず1点目になります。2点目の質問は、今お話しいただいたこのアンケートの結果の公表の仕方なんですけど、今後、どのような形で、どの程

度まで公表をするつもりでお考えなのか。と言うのは、クロス集計を入れるのかどうかと重なってくるんですけども、感覚的に言いますと、結構いろいろ出て来ると思うんです。これだけのものなので、回答数も千を超えましたので、統計的に言えることがたくさんあると思います。解析するのにすごく時間がかかります。そういうことをするのか、むしろ今後のスケジュールを見ながら思いましたが、今後のスケジュールを優先して、そこに間に合う範囲で、しかも、公表せずという前提でいくのか、解析の優先度が変わってきますし、やり方が変わってきます。これは質問でなく、むしろ提案なんですけど、時間をかけた解析は解析でやった方が良いと思います。今後、自分たちでやったこと、成果資料といろいろと考えた時に細かい解析はやるべきだと思いますし、それだけの貴重な声をいただいていると思いますので、自由記述のところにいろいろな市民からの厳しいご意見もありますけれども、これに報いるためにも、きちんとした解析結果を戻すべきと考えます。そう考えていくと、この場で、この調査結果について細かく議論するのはやめて、むしろこのデータを今後どう扱っていくか、どうやって市民の皆さんに返していくかという部分に、当面は力点をおいて、焦点化して議論は進めた方が良いのかなと思います。もうひとつ付けたすと、できれば何らかの形でアンケート結果のデータベースを、研究者なり、分析できる人間に渡せる仕組みを考えていただきたい、というのを3点目として提案させていただきます。2つ質問していますのでお願いします。

事務局：今回のアンケートの結果をどこまで計画に盛り込むか、またどのような形で公表を行うかという事ですが、委員さんがおっしゃったとおりで、クロス集計の作業がスケジュール的にどこまで時間、日数が掛かるのかということになるかだと思います。前回会議で、計画策定を29年度の繰り越して行うことを提案させていただきましたが、補助金の繰越の事務処理について確認をしておりましたところ、29年度への繰越は出来ないということとなり、当初の計画どおり、計画策定は29年3月末までに仕上げるという事になります。その中で、今回のアンケート結果をどのように活かして、計画の内容に盛り込めるかというところですけども、クロス集計については3月までにできる作業は限界があるだろうと思いますので、かなり厳しい状況にあります。それを踏まえ大綱的な計画を策定した上で、細かな部分につきましては、多くの事業の中から取捨選択し、新規事業も含め、ネットワーク作りをどう進めていくか、より細かな施策事業については30年度に行わざるを得ない状況になっているところです。そのため、今回アンケート結果をどこまで盛り込むのかということは、事務局としてもまだ最終的な区切りが出来ていない状況ですので、委員の皆様方の意見もお伺いしながら、最善の努力をしたいと考えているところです。それから、2番目の質問と関連しますけれども、そのような状況にあり、事務局に統計の専門家がおりませんので、今後のクロス集計については、皆様方のご意見等、アドバイスをいただきながら、進めていきたいと考えております。技術的に限界があるかと思いますが、ご意見をいただきましたように、データを公開して、研究者の方の視点で叩いてもらうというのもひとつの方法だろうと思っております。委員の皆様方にデータをお渡しするという事は考えておりましたけれども、外部に提供をするということは考えておりませんでしたので、事務局としては判断が付きかねている状況です。いい方向で活用して頂くこ

とが前提になりますので、その点が確実に担保されれば、公表できるデータだろうと思っております。以上です。

委員：最後の点ですけれども、私が過去に経験した事例ですと、Webで公開するのではなくて、Webで申し込んで、申請書を書いて、審査を受けて、その結果を踏まえてUSBとかでデータを貰っているんですね。私は正直、今回のデータは無制限にWebで公開することは絶対すべきではないと思っています。セキュリティーの担保ですよね。悪用される可能性もあるので、そういう意味では、制限を掛ける上で専門家に解析を委ねる。ある意味、WINWINなところを狙って、やるのもひとつかなと思います。ありがとうございました。

事務局：他にご意見、ご質問はありませんでしょうか。事前に資料をお送りすることが出来ませんでしたので、今日見てもすぐにわからないだろうとは思っているところです。すべてグラフ化できれば、傾向が視覚的に捉えられますので、質問のしようもあつたとは思いますが、そこはお許しを頂きたいと思います。繰り返しになりますけれども、クロス集計については、こういう点とこういう点を絡めた結果が知りたい、必要という事が沢山出て来ると思っていますので、そういう要望がありましたら、電話なりメールなりで教えていただきたいと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、次にインタビュー調査について、それぞれ報告をお願いしたいと思います。全部で7世帯になります。資料には氏名など、世帯が特定できる情報は書いてございませんが、立ち入った状況がありますので、その点は配慮してご報告をお願いしたいと思います。限られた時間ですみませんが、1ケースあたり5分程度でお願いしたいと思います。

【インタビュー調査結果報告】

事務局、松永委員、椎屋委員、栗田委員、久光委員よりインタビュー調査を行った世帯について以下のような内容を報告。家庭状況、保護者と子どものライフヒストリー。保護者に対して、生活や子どもの養育に対する不安や心配事、希望する社会支援などに関するインタビュー。子どもに対して、好きなこと嫌いなこと、将来の職業、必要とする機会などに関するインタビュー。インタビュー結果を通して考えられる、世帯の課題、不足している支援などについて。

事務局：ありがとうございました。かなりボリュームのある内容でした。これまでの報告について、何か聞いておきたい事などありましたらお願いします。委員の皆様方から報告いただいた事例の中には、祖父母の時代から今に至って子どもにも影響が出ている。連鎖がみられるケースもありました。貧困の連鎖を生み出さない地域社会を作り上げていくためにどのように対応していくか議論するのがこの会議であります。聞いておきたい、確認しておきたいということがないでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局：A3の資料が個別のインタビュー調査集約の中間結果になります。ここには、プロセス、あらわれ方やニーズと一方で強み、家庭で見られたストレングス、子どもさんの様子をまとめています。これから計画を策定していく中で、足りない物が何なのかを考えていくひとつの材料になるものと考えております。別々の世帯ですけれども非常

に共通した部分があったりだとか、学年もそれぞれ違うけれども、段階に応じて発達の遅れであったり、置かれた状態の心的混乱、思いや行動の抑制から自己肯定感・有用感の不足が見られたりだとか、ひとつのプロセスがはっきり現れてきているところと、親はそういった大事な部分になかなか介入できていないとかいう思いをしたところ。制度のよってできる事と出来ない事がありますけれども、率直に出された意見やニーズを掲載していますので、出来ればこういった形で計画に乗せていきたいと考えておりますし、これからの計画づくり、支援を考えていく上で、こういった捉え方で足りない点とか、この視点も必要ではないかといった、ご意見があればお願いしたいと思います。以上です。

(10分間休憩)

事務局：会議を再開します。インタビュー結果を取りまとめたA3の資料に、親におけるあらわれ方、それから子ども・若者におけるあらわれ方を課題という形で、それに対して、現行支援と不足している支援やニーズ、子ども・若者の好きなこと・得意なこと、インタビューでみられたストレングスを日向市の強みとしてまとめております。これらと保護者および教職員のアンケート結果を含めて、現状の課題として取りまとめ、今後どういった取り組みをしていくのか、現行支援を踏まえたうえで不足している支援やニーズを、どのように事業化、施策化していくのか、インタビュー調査で見られたストレングスの部分をどのように充実していくのか、という形で計画に盛り込んでいくことになると思います。ここまででご意見ご質問はありませんか。なければ議事の方に行きたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員：インタビューをした対象世帯はどのようにして選んだのでしょうか

事務局：委員さんが日常的に支援している、関わりを持っている世帯、私は保護係ですので、生活保護受給世帯に、事前にこのインタビューの趣旨を綴ったチラシを作って、個人を特定するようなことはないことと、支援を充実させていくための取り組みであることを説明し、ご協力をお願いしました。話の聞き方も、子どもさんは親とは別に、子ども部屋で話を聞くなど工夫しました。

委員：何らかの支援で関わりのある世帯ですね、中にはインタビューを断られた世帯もありましたか？

事務局：事務局ではいみせんでしたが、委員さんの中でありましたか？

委員：聞いてもらえそうな、話してくれそうな世帯に聞いたということですね。

事務局：前回の会議で、委員さんに申告して頂いて、そこにご協力いただきました。

委員：ありがとうございます。

委員：これらのケースを見ていくと、母子、父子、寡婦、自立支援員がほぼ関わっていることが分かります。こども課では虐待とか児童相談など、特にそういうものがなくても、母子、父子、寡婦、自立支援員には関わっていることを改めて思ったところです。報告を聞いて、こども課が持っている情報を、うまく活かせるといいかなと思ったところです。以上です。

事務局：ありがとうございます。公的な支援、または社協さんの支援とかで関わっているけれ

ども、なかなかうまくいっていないケースもあり、うまくいっていない部分を今回、計画に盛り込んでいく必要があるという事になるのでしょうか。他にご意見がなければ議事に入りたいと思います。それでは議事ということで2つ用意をしております。まず「日向市子どもの未来応援推進計画」案の協議について、事務局から提案、説明をさせていただきます。

3 議事

- 1) 「日向市子どもの未来応援推進計画」案の協議について
- 2) 計画案策定に向けたスケジュールについて

【事務局より提案】

議事1) 「日向市子どもの未来応援推進計画」案について、第1章から第3章までで訂正・追記した部分（下線部）の報告と、新たに追記した第4章について説明。

○第1章の追記

2ページに、三輪委員からご意見で、宮崎県家庭教育支援条例の施行と経過を追記。

3ページに、久光委員からご意見で、それぞれの計画に実施年度を記載

○第2章の訂正、追記部分。

5ページの(2)「3区分での年齢別人口の推移」、平成18年を削除。

9ページに「児童扶養手当受給者数の推移」を追加（過去5年間）。

11ページの栗田委員からご意見で「児童相談の新規受理・対応件数の推移」および「児童虐待相談件数」に、児童の位置づけと特定妊婦の定義を追加。

14ページに、「小中学校における歯科検診結果・治療状況」、「子ども会及びスポーツ少年団の団体数・会員数の推移について」を追加

その他「健康手帳交付時のアンケート結果」、「市内の高校の中退者数の推移について」記載を検討中。

○第2章-2 追記部分

18ページ以降に、「保護者と子どもの個別インタビュー調査」から得られた課題を追加（下線部）

○第4章追記

1) 「子どもの貧困の定義」、2 「基本理念」、3) 「基本方針」、4) 施策の柱立てと市民総ぐるみの支援の推進について提案。

事務局：事務局より説明をいたしました。ご意見を自由に出して頂きたいと思います。

委員：20ページの本市の強みの部分になります。宮日で年明けから連載しているランキング特集で、ご存知の通り、女性の就労率についてはよくM字曲線がとりあげられますが、宮崎県は特にM字の谷間が深いと言われております。手前味噌で大変恐縮ですが、保育園も女性の就労支援という面と、子どもの発達という面で、非常に評価をいただいております。この本市の強みの部分に、私ども保育の分野について少しでも盛り込んでいただけると私たちの仲間にとって非常に励みになるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

事務局：ありがとうございます。ぜひ盛り込みたいと思います。他にありませんでしょうか。

「子どもの貧困」の定義と基本理論については、今までの会議でいろいろと議論して頂いた中で、今回取りまとめて提案しております。あと22ページに基本方針とキャッチコピーがあって、4)の施策の柱立てと市民総ぐるみの支援の推進の中で①から④と柱立てしておりますが、この中に細かな施策が盛り込まれることとなります。次回の会議ではその辺をアンケートの結果、現状の課題の把握とあわせて、ご提案をすることになろうかと思えます。

委員：よろしいですか。前回から今回の会議までに、いくつか追加された部分について、本当にありがたいなと思って聞いていました。前回私が提案し、前書きのところに追加していただいた宮崎県の議会関係の動き、「宮崎県家庭教育支援条例」については、本当に意義が大きいと思っております。というのは、こういった子どもの貧困対策は主に、行政の行動計画でできています。そういう中で、私の知っている範囲では全国で5つの自治体しかありませんけれど、宮崎県が昨年作った議会筋の子どもの貧困を含む子ども支援、家庭支援の在り方というのは、日向市の議会関係にも影響を与えるものだと思っておりますので、是非記載をお願いしたいと思い発言したところです。それから、本日提案されました、子どもの貧困に関わる定義を見て、さきほど話に出ました宮日で今年の初めから連載している「考福論」（考える福の論）の中で、幸せは何なのか、豊かさとは何なのか、というような定義が掲載されています。これを裏返すと、貧困とは何かということを含んでいる訳です。こういった議論ができるひとつのチャンスかなと思っておりますので、是非、さらに周知を図るような取り組みを、今日もいくつか団体のイベントの取組みが紹介されていますけれども、どんどんやって欲しいというのが私の率直な思いです。今後、具体的な提案をしていく時に、前回ぜひ追加してほしいと言った事があります。それは、国が2014年に決めた大綱の中で、子どもの貧困に関する25の指標を決めました。さらに宮崎県が昨年策定した行動計画の中では、その25の指標のうち、都道府県が知りえる情報として19の指標を示しました。そういう意味で言うと、都道府県に関連して、市町村レベルで指標を作るという事は大事なことだと思っております。指標というのは、今後計画を点検評価し、また新たに計画を作っていく際の基準になるものです。この子どもの貧困対策が一過性のブームに終わらず、原則的に取り組んでいく為には指標を基に、点検評価をしていく、そういうスタイルを作りたいというのが、私からのお願いです。以上です。

事務局：今、発言いただきました指標に関しましては、ある程度情報の集約をしております。今後、市の事業の柱立てに応じて、現状のリストと合わせて、指標に関する参考数値を整理して、委員の皆様はこの会議後に送付したいと思っておりますので、次回の会議で、協議をお願いしたいと思います。ご意見ありがとうございました。

委員：はい、わかりました。

事務局：補足ですけれども、指標については市の責任で策定できる部分もありますし、県が関係する部分もありますので、国が決めた25の指標のうち、全部出すという事にはならないと思っておりますので、その点はご了承ください。他にありませんでしょうか。

委員：22ページの施策の柱立てと市民総ぐるみの支援の推進の③「支援を届けるネットワ

ークの確立」と書かれている部分です。先程の20ページの本市の強みと関係する話になるのですが、本市の強みがこれだけあって、既存の資源がある程度あることが強みである、と触れられているにも関わらず、支援を届けるネットワークの確立の部分に盛り込まれていないというのはもったいないと思います。③の辺りに本市の強みを活かした、どういったネットワークを、具体的にどうしていくのかという事を、ここでは抽象的な文章になると思いますが、取り入れていくことで、今後より具体的にどういったところと連携していくのか、議論がしやすくなるのではないかと考えますので、是非ご検討いただきたいと思います。お願いします。

事務局：ありがとうございます。他にありませんか。

委員：22ページのところの施策の柱立ての①に入るのかもしれないですけど、子どもの貧困と考えた時に、その両親、保護者の就労も課題で、そういった支援の枠組みも出て来ると思います。子どもの貧困にかなり影響があると思いますので、施策の中身として欲しい。

事務局：今の点は、②の部分で触れています。具体的に、ひとり親への就労支援を日向市としてどうするのかというところは、今後の会議の中で、私自身も関心がありますので、評価をしながら、なんらかの拡充できる部分が盛り込めればと思っています。

事務局：よろしいでしょうか。他に、なんでも結構です。

委員：21、22ページの部分で、この計画案の中にこの会議の位置づけを記載しなくていいんでしょうか。

事務局：そこは、第1章「はじめに」の部分に記載すべき根本的なことだと思います。未来応援会議設置については4ページに記載していますが、この会議体の役割が、計画策定だけにとどまらないということもあり、またこの計画に盛り込んだ内容を、どのように職員や地域に広めていくかという課題も含めて、4ページの記載については、再度課内で協議したいと思います。

委員：お願いします。以上です。

事務局：計画の進行体制という部分になるかと思いますが、別の章に記載するか、計画の最後の方に、どのような体制で進行管理をするのか、PDCAサイクルに関することもありますので、事務局で預からせていただきたいと思います。

委員：それもさることながら、今までやったような「支援を届けるネットワークの確立」の中で、この会議体こそネットワークの形成であると思います。これを活かした形での発展形になるのか、別装建てになるのかわかりませんが、その辺のコンセプトをある程度明確にすると、今後の議論の進め方もわかり易くなるのかなという意見でした。以上です。

事務局：この会議自体は、計画策定以降は、ネットワークの形成を図っていくための機関となりますので、来年度以降も引き続き、開催することになります。31年度に独自モデルの事業を起ち上げることが本事業の最終目標であるため、支援を届ける機関を、具体的にどのような構成でやっていくのか、事務局で考えている案もありますが、近い会議で示させていただいて、委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。また、30年度以降に予算付けしていく中で、財源確保に繋がる事業を検討した上で、どのようなネットワークの構成が可能か、考えていきたいと思っています。案としては、子ど

も若者に特化した応援ネットというイメージで、行政や「心から」、母子会やNPOなどの組織が、個別のケースに関して、学習支援、生活支援、居場所支援など、支援のコーディネートについて話し合いができるネットワークが出来ないかを考えています。

委員：計画策定が終わった後に、支援のコーディネートをする機関を、どこが担うのかということが一番の問題になると思いますが、その辺も含めて考えるということですね。

事務局：そうです。それが29年度以降の事業になります。それは、行政内部も含めて協議することになりますが、予算を伴うことから、今回の計画に、はっきり明記することは難しいと考えています。ただ、そこに向けた方向性は、計画の中で打ち出したいと考えています。

事務局：29年度に地域の支援ネットワークを作り上げるという事になりますが、ご承知のように、ひとつの例として、社協さんがやっている子ども食堂や、区と協力してやっている事業などもあるかと思えます。往還区や亀崎東区とか、福祉部を作っているところもあります。そういったところと協力、連携をして、子の居場所をつくるとか、色々方法は考えられますので、委員に区長さんの代表に入ってもらうことも必要になってくるのかなと考えているところです。ほかご意見はございませんでしょうか。なければ、今後のスケジュールについて一部修正がありますので、ご提案をさせていただいて、ご意見をいただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

【事務局より提案】

議事2) 計画策定に向けたスケジュールについて提案。

事務局：提案については、よろしいでしょうか。

委員：時間的制約があることについては承知しました。ひとつお願いですが、最初の方から言っていたことですが、例えば今日の会議でも、色々な提案や意見がありました。それらについて、次回会議の始めまでに、協議した部分、決定した部分、検討中は検討中というかたちで情報提供いただけると、今後それを重複して議論しないで進められるので、効率的になっていくと思えます。お忙しいところ大変お手数ですが、事前もしくは最低でも次回会議の始めまでにフィードバックしていただければ、ありがたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

事務局：承知しました。他にないでしょうか。窮屈なスケジュールとなりますが、年度内に可能な限りより良い計画を作り上げ、29年度につなげて行きたいと思えます。先程申し上げたように、緊急に対応すべき事業があれば、計画の修正あるいは30年度の予算への反映を検討していきたいと思えます。よろしいでしょうか。

委員：あの前回は発言させていただきましたが、この会議の重要さというのがありますので、常にこの会議に臨むには集団的な議論を行って臨んでいます。その際に、自身で覚書的な資料を作って、その会議ごとにその内容については正確に、客観的な資料を作って、議論をしていますけれども、やはり、議事録がどうしても欲しいというのが私の正直な思いです。これまで5回会議がありました。まだ2回分の議事録しかないものですから、私は情報共有の基本は議事録だと思っていますので、すぐできる事としな

いといけない事を検討していただいて、今回について次回までとは言いませんが、前回、前々回については、掲載していただけるといいかなと思っております。忙しい事はわかっているのですが、よろしくお願ひしたいなと思っております。以上です。

事務局：事務局としても、気にかけておりましたが、大至急取り組みたいと思います。それでは、今後のスケジュールは、提案のとおりですすめさせていただきます。ありがとうございます。他にご意見がなければ、第5回の子どもの未来応援会議を閉会いたします。どうもお疲れ様でした。